

第1章 研究の概要

1 研究開発テーマ

「産業イノベーション人財の育成」

～天草の魅力ある農業で持続可能な未来を拓くリーダー～

2 研究開発の目的

(1) 研究の背景

近年、我が国は世界に類を見ないスピードで経済成長を遂げる一方で、人口減少社会に突入した。この問題は、本校が位置する熊本県天草地域も例外ではない。天草地域は、熊本市から約90km離れており、九州本島と5つの橋で繋がっている。このような地理的な条件の中、都市への人材流出、それにより更なる人口減少といった諸課題を抱えている。これらの課題を解決するため、自治体や多くの企業が様々な取組を行っているのが現状である。

一方、天草地域には「宝島」と称されるほど豊かな資源が数多く存在しており、農業や水産業といった第一次産業のみならず、観光業を中心とする産業も根付いている。これらの豊かな資源を最大限活用するためには、社会条件等による経済活動の停滞・縮小に対し、ICT技術に代表される近年の急速な技術革新、産業構造の変化やグローバル的視点への対応を迅速に進めていくことが必要となる。

そのような課題と特徴を持つ地域において、本校が果たすべき役割は大きい。本校は、天草下島内の2つの校舎から成り、普通科に加え、天草地域内で唯一、農業科、商業科、水産科の産業教育を担う専門高校である。中でも、3つの農業系学科は100年の歴史を持つ本校の母体となる学科として、地域の基幹産業である農業の後継者育成に寄与してきた。

前述したとおり、我が国全体の課題である人口減少は、本校の位置する天草地域にも例外なく降りかかる重要課題であり、天草地域の産業を支える人材育成に従事する本校にとっても、向き合わねばならない重要な問題である。本校には、これらの課題と生徒が向き合う機会を設け、仕組みを整える役割がある。

(2) 研究開発の目的

前述のとおり、天草市は「日本の宝島」と称されるほどの資源を有しながら、熊本県内で最も人口減少が著しい地域である。農業は天草の基幹産業であるが、就農者の減少や耕作放棄地の増加が大きな課題となっている。

これらの諸課題を解決するため、本研究では地域資源を有効に活用することで、農業ビジネスを生み出し、天草を世界に誇れる宝島にしていける「産業イノベーション人財」を育成することを目指す。「産業イノベーション人財」とは、「宝島」である天草、そして同種の課題を抱える諸地域の発展と活性化に寄与する人材を指す。

そのために本研究では、本校の農業系3学科が、学科の特性を活かして地域の諸課題に向き合い、専門性を伸ばして課題解決に向けて地域企業等と有機的に連携し、従来の産業のあり方にイノベーションを起こす人材育成を目指す。

本研究で育成を目指す人材像は、未来の未知なる世界に対応しうる人材である。そのために必要と考える3つの力「連携する力、協働する力、変革する力」を育成することを目的とし、以下の資質・能力を備えた生徒を育てる。

【本校が育成する資質・能力】

資質・能力	具体的指標
知識・技術	地域や社会の課題を理解し、専門的な知識と高度な技術を用いて課題解決の方策を探究することができる。
思考・判断・表現	論理的かつ多角的に物事を捉え、様々な情報を分析・精査しながら課題に対して探究し、自らの考えを分かりやすく伝えることができる。
主体性	主体的に活動し、自らの意見を持ち、地域社会に参画することができる。
協働性	地域や社会との繋がりを持ち、目的を他者と共有しながら学ぶことができる。
倫理観	人権感覚に富み、いのちと向き合いながら先端技術を利用することができる。

(3) 研究開発の仮説

本校は、天草管内唯一の農業経営者を育成する高校として古い歴史を持ち、多くの経営者を輩出してきた。しかし、農業従事者数は減少の一途を辿っている。本校の役割として、天草の豊かな資源を地域産業の活性化のため、最大限に発揮することが求められる。そこで、地域が直面する社会問題に対し、課題を見つけて解決・実行できる産業イノベーション人材の育成を目指し、学校教育改革を主体とした以下の4つの研究軸について取り組む。

ア 「課題研究型学習」(天拓プロジェクト)

地域課題を題材にした課題研究型学習のカリキュラムを開発する。
Society5.0に対応する最先端の農業を実践できる人材を育成する。

イ 「職業観の育成」

天草を支える人材を育てるための職業観育成プログラムを開発する。高度な倫理観を持ち、豊かなビジネス感覚を備えた農業人を育成する。

ウ 「コンソーシアムの構築」

学校を中心としたコンソーシアムの構築を目指し、地域内外の関係機関による協働的な組織作りを実施する。

エ 「学習評価法の開発」

《仮説Ⅰ》

「課題研究型学習」(天拓プロジェクト)において、以下の仮説を立てる。

ア 1年次の「総合実習」、「農業と環境」、「農業情報処理」において、天草市や

株式会社デンソー、外部人材による講演会等や先進地視察、地域資源の活用方法などを学習することで、地域課題について理解を深めることができる。

イ 2年次の「総合実習」において、商業科と連携することで市場調査及び分析の手法を身に付けさせる。さらに、それを生かすことで、具体的な商品開発の際、地域の現状に即したねらいを生徒自らが考え、設定することができる。

ウ 3年次の「課題研究」、「総合実習」において、多方面と連携することで新商品や生産物を創出することができる。さらには外部人材による講演や先進地視察での学びを生かし、生産物に新たな付加価値を付けることができる。

《仮説Ⅱ》

「職業観の育成」（天草を支える人材を育てるための職業観育成プログラム）において、以下の仮説を立てる。

ア 1年次の「農業と環境」において、農業についての基礎・基本を定着させるとともに、外部人材と連携し、SDGsについての講演会を実施することで、持続可能な社会への理解を促す。さらに「農業情報処理」の中でRESAS等を活用した情報収集・活用能力を身に付けさせ、地域課題の解決を目指す職業人としての資質・能力を育成することができる。

イ 2年次の「農業と環境」、「総合実習」において、GAP認証基準について学び、それを活かして圃場環境や生産物の評価を行うことで、将来的なビジネスのビジョンと社会の情勢について理解する。

ウ 3年次の「総合実習」において、グローバルGAP認証基準を基とした圃場の整備や天草宝島起業塾、SBP事業への参加、ビジネスプランの提案を行うことで、先進的かつ国際的な視点に立った職業人としての高い倫理観を醸成することができる。

《仮説Ⅲ》

本研究におけるコンソーシアムを活用することで、地域課題の解決に貢献する研究活動の促進や教育活動の充実、専門的知識・技術の早期取得、そして地域の課題・現状を反映したPDCAサイクルの構築及びその持続が実現できる。

《仮説Ⅳ》

上記の研究を支える校内体制の改革を進めることで、生徒に、将来的に課題発見から課題解決に至るに必要な資質・能力（知識・技術、思考・判断・表現、主体性、協働性、倫理観等）を養成することができる。

また、ルーブリック評価やポートフォリオ、アンケート評価を有機的に組み合わせた学校独自の評価システム「天草拓心版オーダーメイド学習評価法（AOLA）」を開発し、個別化・可視化された評価を行うことで、自ら課題解決に向かおうとする主体性や、職業人として身に付けるべき高度な倫理観を備えた人材の育成ができる。

3 研究開発の目標

(1) 産業イノベーション人財の指標

育成項目	定性目標	定量目標	測定方法
連携する力	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の外部機関等との連携意欲が高い。 ・地域貢献活動の回数や地域住民等とコミュニケーションの頻度が上昇する。 ・周囲の意見を聞きながら、積極的に作業を進められる。 ・周囲との連携や協働的な活動を通して、仲間や世界との強い絆が身に付いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての課題研究における外部機関等との連携回数10回以上 ・課題解決の手法を理解する(3.0以上※4段階) 【ルーブリック評価】 ・各項目平均2.7以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動記録評価 ・課題研究成果の評価 ・ポートフォリオ ・ペーパーテスト ・アンケート
協働する力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域商業施設等と販売可能な商品の開発または開発に着手する。 ・商品開発、販売による地域の活性化に取り組む姿勢が見られる。 ・地域課題を発見・研究テーマとした課題研究を外部と協働して考えられる。 ・周囲との連携や協働的な活動を通して、仲間や世界との強い絆が身に付いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品の開発および販売実績(内部・外部評価) ・開発商品の販売店舗数および販売数増加 ・SBP企画部への参加 ・農業関連の研修への参加(県内外問わず) ・外部機関との協働学習回数10回以上 【ルーブリック評価】 ・各項目3.0以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・開発商品の販売店舗数調査 ・開発商品の売上高調査 ・ポートフォリオ ・ペーパーテスト ・アンケート
変革する力	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の地域課題(過疎化など)に対する理解度が上昇する。 ・自分が住んでいる地域の歴史・文化・企業・取組への関心が上昇する。 ・地域の取組と県外の取組を結び付けて考えられる。 ・天草の歴史や文化、企業の取組などを島外に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスプランの提案ができる。(外部評価3.0以上※4段階) ・成果物の取得(専門的資格3つ以上・各種コンテスト出品1回以上) ・学校農業クラブ活動各種大会3つ以上出場 【ルーブリック評価】 各項目3.3以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部アンケート ・成果発表会 ・活動記録 ・ポートフォリオ ・ペーパーテスト ・アンケート

(2) 成果目標 (アウトカム) ・ 活動指標 (アウトプット)

	成果及び活動内容	目標	2021年度実績
(ア)	天草宝島起業塾への参加者数	40人	21人
(イ)	農業関係学会参加者数	30人	0人
(ウ)	SBP企画部への参加者数	10人	10人

(エ)	県外研修への参加生徒数	40人	0人
(オ)	農業系大学進学を予定する生徒数	5人	3人
(カ)	公的機関からの表彰、ビジネス課題、農業活動に関する大会の入賞者数(農業プロジェクト大会、ビジネスプランコンテスト等)	10人	5人
(キ)	課題研究に関する県外の研修参加者数	2学年 6名以上	0人
(ク)	課題研究に関する県内の研修参加者数	1学年全員	22人
(ケ)	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校の数	大学・高校で5校	2校
(コ)	課題研究に関して大学教職員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数及び企業、NPO法人等の参画回数	授業回数1割以上の回数 (休業中含む)8名 ×12回=96回	2名×7回 =14回
(サ)	ビジネス課題に関する国内外の大会における参加者数と入賞者数	参加者数は1学年1割以上 上位入賞者数は参加者の5%以上	0%
(シ)	島外生徒の受け入れ者数	最終的に10名以上	
(ス)	先進校としての研究発表回数	年1回以上	年3回
(セ)	課題研究に関するWEBミーティング、WEBディスカッションの実施回数	学期に1回以上	全10回
(ソ)	地域協働事業に関するホームページ更新回数	週1回以上	13回
(タ)	ホームページの整備による、海外の大学、高校、企業等との交流回数	学期に1回以上	2回

(3) 定性目標

	定性的成果	目標	評価
(ア)	自分が住んでいる地域の歴史・文化・企業・取組への関心が高まった。	1 学年末 9 割 2 学年末 9 割 3 学年末 9 割	1 学年末 68% 2 学年末 87% 3 学年末 93%
(イ)	過疎化についての課題への関心が高まった。	1 学年末 9 割 2 学年末 9 割 3 学年末 9 割	1 学年末 71% 2 学年末 93% 3 学年末 98%
(ウ)	地域と県内外の取組を結び付けて考えるようになった。	1 学年末 7 割 2 学年末 8 割 3 学年末 9 割	1 学年末 47% 2 学年末 63% 3 学年末 74%
(エ)	課題を発見・設定し解決に向けての過程を協働して考えるようになった。	1 学年末 7 割 2 学年末 8 割 3 学年末 9 割	1 学年末 65% 2 学年末 89% 3 学年末 96%
(オ)	論理的科学的思考力が身についた。	1 学年末 6 割 2 学年末 7 割 3 学年末 8 割	1 学年末 43% 2 学年末 64% 3 学年末 76%
(カ)	地域貢献活動やコミュニケーションの割合が増加した。	1 学年末 6 割 2 学年末 7 割 3 学年末 8 割	1 学年末 61% 2 学年末 75% 3 学年末 88%
(キ)	島外に発信するための天草の歴史・文化・企業・取組等への関心が深まった。	1 学年末 7 割 2 学年末 8 割 3 学年末 9 割	1 学年末 51% 2 学年末 67% 3 学年末 80%
(ク)	周囲との連携や協働的な活動を通して、仲間との強い絆が身についた。	1 学年末 7 割 2 学年末 8 割 3 学年末 9 割	1 学年末 72% 2 学年末 89% 3 学年末 98%

(ケ)	多くの知識を積極的に取り入れ吟味し、自ら思考するようになった。また、周囲の意見を聞きながら、協働的な作業を積極的に行うようになった。	1 学年末 7 割 2 学年末 8 割 3 学年末 9 割	1 学年末 48% 2 学年末 68% 3 学年末 82%
-----	--	-------------------------------------	-------------------------------------

4 天草拓心版オーダーメイド学習評価法（AOLA）について

(1) 評価法作成の目的

新学習指導要領への改訂に伴い、本校においても評価法の再検討が必要となっている。今後は、評価の基準を、「何を知っているか」ととどまらず、「何ができるか」へと改善することが大切となる。このためには、現在の学習評価の取組に加え、さらにパフォーマンス評価やルーブリック評価、その他の新しい評価法を知り、取り入れていく必要がある。

今回、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の採択に伴い、新たな評価法を完成させ、生徒自身が学びに向かう力の一助となるべくAOLAの運用を目指していく。

(2) AOLAとは何か？

【評価の特徴・独自性】

本校独自の評価・測定法として、以下に示す『AOLA（天草拓心版オーダーメイド学習評価法）』を設定する。※AOLAは、AMAKUSATAKUSHIN ORDERMADE LEARNING ASSESSMENTの略。スペイン語の「今、これから」を意味するAhora（アオラ）より。

ア 人を伸ばす「評価」を念頭に、リーダーシップ教育については、個別にルーブリック評価による目標設定を行っていく。この際、教職員の適切な支援が行われるものとする。

イ 定量的評価として、個別、グループ、事業全体に対するアンケート及びルーブリック評価を実施し、到達目標を示すとともに、活動の検証を行う際の材料とする。なお、個別、グループによるルーブリックを利用した診断的評価および総括的評価を行う際には教職員の面接を行い、話し合いを通して実施する。

ウ 定性的評価として、アンケート及びポートフォリオ評価を実施し、生徒及び教職員、学校全体の変化を定期的に記録していく。このとき、全体の変化を可視化するため、テキストマイニングによる質的評価も実施する。この結果より、活動の効果を検証すると共に、次の活動を効果的に進めるための手立てを考える材料とする。さらに、校内・外の各種表彰や資格取得等についても、ポートフォリオ評価の中に組み入れる。

エ 個人内のリフレクションとして、自己評価とピアレビューを実施する。まずは事業開始後に診断的評価を行い、生徒の現状を把握するとともに、毎回の活動での生徒の意識および資質・能力の変容をアンケート、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価を利用して記録する。これらを利用した形成的評価を毎回の活動の中で実施し、経験学習を通じた成長を目指す。

オ 多角的な評価を保証するため、教職員だけでなく、保護者や地域からの評価をポートフォリオ評価の中に位置づける。また、本事業の取組に関するアンケート評価についても、テキストマイニングおよび統計的分析を実施し、変化をモニタリングするとともに、評価者自体も参画者としての意識高揚を図る。

(3) 評価の対象と観点

ア 生徒の変容

「知識・技術、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性、倫理観」

その他（活動への興味・関心、イノベーターとしての自覚など）

イ 教職員の変容

短時間の可視化された参加型のミーティングの能力、学習者中心のマインドセット、チーム学校としての教職員間、地域との連携と協力など

ウ 保護者の変容

評価者として本事業を中心とした学校運営への理解、興味、関心、さまざまな個性伸長の支援者意識、学校や教職員との協力など

エ 学校の変容

学習する学校としての変容、コミュニティ・スクールとしての機能付加、本事業の視点での学校行事および地域貢献の在り方、評価の研究など

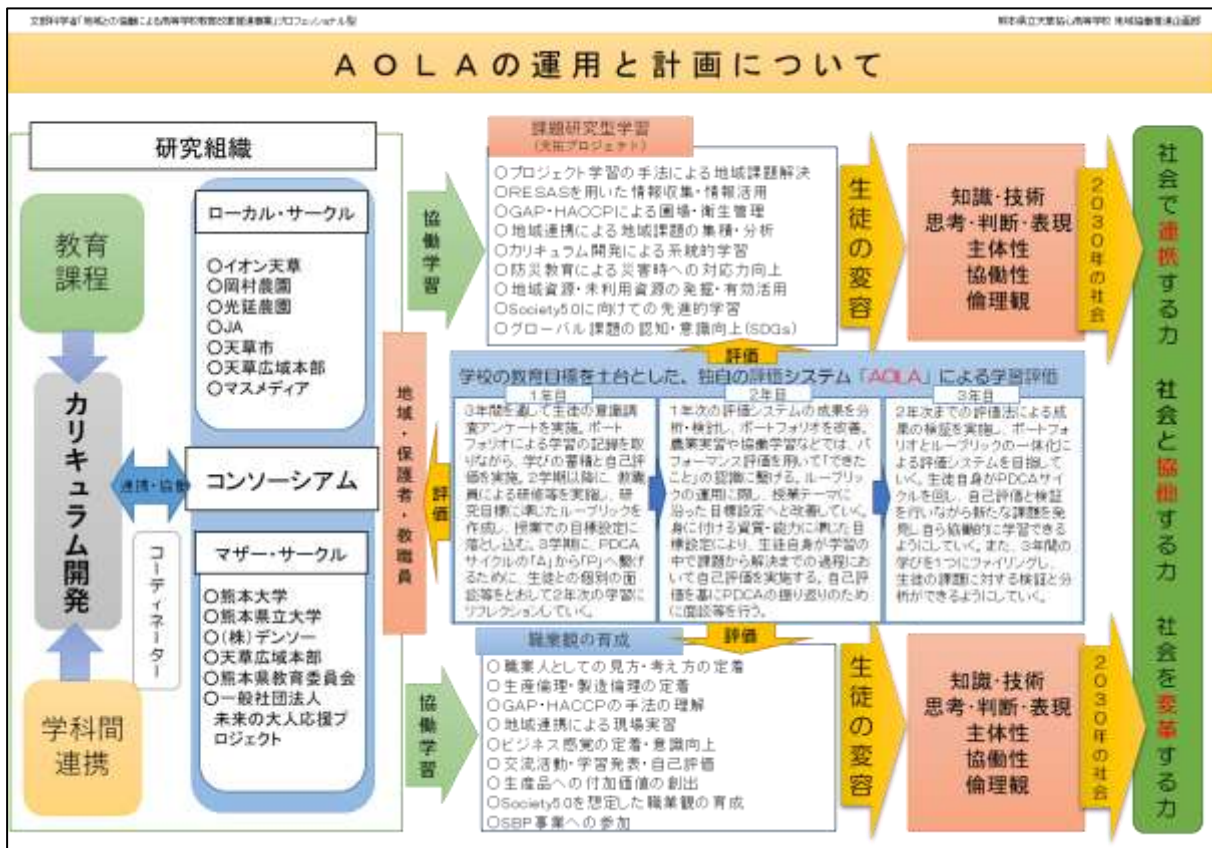
オ 大学、企業、行政の変容

地域創生のパートナーとしての対等な関係でプロジェクトを進行、大学・企業等や地域等の高校に対する意識、連携や支援の在り方など

※内発的な動機づけを高めるための評価を念頭に、自己点検と自己評価に務めるとともに、運営指導に関わる県教育委員会、大学関係者、小中学関係者、保護者、同窓会組織、地域、産業界等からの外部評価についても積極的に取り入れる。なお、校務レス化の観点から評価のための評価とならないように留意するとともに、ペーパーレス化を推進する。

(4) 検証評価方法

各取組等に関し、定性的評価と定量的評価の結果及び推移をもとに、運営指導委員会及びコンソーシアム委員、学校評議員等の指導助言を受けて検討評価を行う。



5 研究開発の内容

地域が直面する社会問題に対して解決策を提案し、実行できる産業イノベーション人財の育成を目指し、平成31年度（2019年度）から令和3年度（2021年度）入学生（1～3年生）を対象に以下の取組を行う。

（1）「天拓プロジェクト」（地域課題を題材にした課題研究型学習）

「農業と環境」及び「総合実習」などの授業や長期休業期間、週末を利用し、令和3年度（2021年度）は第1学年全員で、PDCAサイクルに準じたプロジェクト学習の手法について学習する。その手法に従い、地域課題をテーマに関する取組を実施する。また、第2学年全員で、1学年次のテーマに沿った研究活動を深化・進展させ、コンソーシアム委員及び地域人材と連携して地域資源を活用した課題研究型学習を進めていく。第3学年では、2年次までの研究成果を深化させ、地域課題の解決に向けて成果を形にする取組を実施する。

第1年次（基礎）	地域理解及び課題を発見し、解決の手法を学習・SBP※の導入
第2年次（定着）	地域資源を活用する力の育成・課題解決型学習の実践
第3年次（応用）	経営力育成プログラムの構築・学びを社会で実践

※SBP（Social Business Project）の略称であり、天草市との協働によるプロジェクトを実践する組織を形成

1学年 （生徒）	<p>ア 科目「農業と環境」において、農業に関する多面的機能を学習し、専門的な基礎・基本について学習する。また、昨年度の実績及び課題等を考慮し、野菜及び花苗等の栽培などに関するプロジェクト学習を実践し、PDCAサイクルに沿ったプロジェクト学習の手法について学習する。学習の成果について、科目「農業情報処理」でデータのまとめ・調査・分析を実施し、学習成果発表の資料作成を実施する。</p> <p>イ 科目「農業と環境」の授業と平行し、科目「総合実習」では、地域理解研修及び課題発見講座を実施する。外部人材及びプロフェッショナル型コーディネーターによる講習等を実施し、科目「農業情報処理」でグループワークによる地域理解のための調査・分析を行う。地域の現状について理解を深め、課題発見のための講座を設定し、地域の課題について生徒自身が提案・協議を行う。グループワークで決定した課題をテーマとして、解決に向けた計画作成（Plan）を実施し、2年次の取組に繋げる。</p>
2学年 （生徒）	<p>ア 昨年度の実績を経て、科目「総合実習」で14グループに分かれて地域課題をテーマとしたプロジェクト学習に取り組む。地域課題をテーマとし、グループワークによる段階的な学習プログラムを構築し、評価によるフィードバックから地域連携を主体的・協働的に進める。コロナウイルス感染防止の観点から、県外及び地域管外との交流等を制限した状況での学習となり、協働的な学習環境を整備するため、リモートによるテレビ会議等を随時実施していく。また、コンソーシアム委員の協力の下、分野に沿ったプロフェッショナルによる指導などを実践し、課</p>

	<p>題解決に必要な外的要因を補う。</p> <p>イ プロジェクト学習を効果的に進めていくため、校内での学習発表会を年間数回に分けて開催する。3学科の1・2年生による評価と、教職員（他教科）及び管理職による評価を基に、学習活動の改善に繋げ、PDCAサイクルを短いスパンで繰り返し行うことで主体的取組を強化する。</p>
3学年 (生徒)	<p>ア 2年次までの実績を経て、科目「課題研究」で14グループに分かれてプロジェクト学習を実践する。マーケティング理論に沿った学習計画を設定し、地域の企業や行政機関と協働しながら地域資源を利用した商品開発などに取組む。また、企業等との連携を進める中で、企業理念や企業が目指すSDGsなどを学習し、グローバル課題と地域課題との関連付けを実施する。</p> <p>イ プロジェクト学習の成果を形にするため、経営シミュレーションを実施し、商品化した場合の地域貢献度や経済効果等について調査する。また、ビジネスコンテスト等に挑戦し、公的評価を取得する。特に、地域ブランドや知的財産等の普及に伴い、県や企業、行政機関等と連携していく。</p>
SBP	<p>ア 昨年度に引続き、本事業コンソーシアム（マザー・サークル）委員である岸川氏をコーディネーターとし、天草市との協働的な地域課題解決に取組む。三重県の南伊勢高校との協働研究を実施し、地域の特産を活かした商品開発に取組む。生徒の主体的な活動をサポートするため、リモート会議による学校間交流や岸川氏との会議等を実施する。</p> <p>イ 「天拓プロジェクト」及び「SBP (Social Business Project)」の活動を発展・深化させるため、活動内容を授業内活動に留めず、放課後や長期休業中などを活用し、生徒たちが主体的・対話的に学びに向かうための活動ルームとして「天拓Lab」を開設し、学年間や学科間、教科間での協働学習ができるように配慮する。共通課題に向けた学習活動に準じ、担当者間の連携や「天拓Lab」の活用・展開を進める。</p>
教職員	<p>ア 教育課程の開発研究を進める中で、学校全体で授業改善に取組む。外部人材の定期的な活用、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を推進し、教職員による「授業デザイン会」及び「授業振り返り会」を定期的に行い、生徒・教職員による評価を基に「教える授業」から「わかる授業」への展開を目指す。このことで、指導と評価の一体化を実現する。</p> <p>イ AOLAの一端でもある観点別評価の試行に向けて、本県教育センター及び熊本大学の有識者による指導・助言を受け、全教科で次年度、試行する。</p>

(2) 「職業観の育成」(天草を支える人材を育てるための職業観育成プログラム)

第1学年全員で、農業の現状や地域課題、先端技術などの情報収集を実践し、日々の学習や地域との協働学習で活用する術を身に付ける。また、コンソーシアム委員との連携により、地域社会の抱える課題やその背景について学習し、職業観の醸成に繋げる。

第2学年全員で、1年次の学習を基にしたフィールドワークを実施し、学びを現場で生かすための学習を実践する。また、フィールドワークによる専門的・先進的な知識・技術の習得については日々の学習へフィードバックし、授業や面談などを通して振り返りを実施する。そのことで、食料生産としての大きな機能を果たす農業の目的を踏まえつつ、ビジネスとしての農業に関する見方・考え方について生徒の意識の変容を捉えていく。

第3学年全員で、2年次のフィールドワークの成果を踏まえ、外部のプロフェッショナル人材によるビジネスに特化した学習を進める。天拓プロジェクトの成果を基にしたフィールドワーク及びWEB会議等を実施し、職業人としての資質・能力を育成する。

第1年次(基礎)	情報収集と活用方法を学習、就農教育の実践、職業倫理の醸成
第2年次(定着)	現場実習で課題とニーズを分析、産業先端技術の習得
第3年次(応用)	グローバルな視点での課題解決を実践、GAP認証学習

学年共通	<p>ア 就農教育を主体とし、これからの産業人として求められる職業観・倫理観の育成を行う。また、Society5.0に対応する最先端の農業を実践できる知識と技術を身に付ける。</p> <p>イ 新型コロナウイルス感染防止のため、当初予定した現場実習を中止とした。職業現場による学びの効果の代替として、天拓プロジェクトと並行してフィールドワークを実施し、課題発見や経営感覚、産業の先端技術について体験的に学習する。</p> <p>ウ 地域の資源を知り、それらを生かすための手段を外部有識者から学ぶことで、グローバルな視点で社会性や創造性を育む。</p> <p>エ GAP(農業生産工程管理)教育を通して、これからの農業の可能性を広げる学習を進める。さらに、経営的な視点で捉え、グローバル産業としての農業を理解し、将来の就農への計画的なビジョンを確立する。</p> <p>オ HACCP(危害要因分析重要管理点)教育を通し、食品加工に関する衛生管理について理解を深め、食品関係従事者としての危機管理能力の育成を実施する。また、国際基準に沿った食品加工技術の習得を目指し、進路設定と関連付けて授業実践に取り組む。</p>
------	---

(3) 「天草拓心版オーダーメイド学習評価法(AOLA)」の構築

1年次は、アンケートによる意識の変容及びポートフォリオによる学習内容の理解と自己認知を中心に行ってきた。2年次は、ルーブリックによる目標に準じ

た評価基準を設定し、日々の学習による生徒の変容について、ポートフォリオとアンケートを交えた学習評価法の検証を実施する。

カリキュラム開発	<p>ア プロフェッショナル型コーディネーターとの目標共有及び教科横断的な学習計画の開発を実施する。また、「天草拓心版オーダーメイド学習評価法（AOLA）」の運用により、生徒の課題に対する主体的な取組と学習効果の測定、成果の評価・検証を行う。これにより生徒一人一人の変容を捉えていく。</p> <p>イ 同地域や県内の高校と連携し、課題を共有することから教育課程の見直し及び評価システムの改善を行う。</p>
評価システムの構築	<p>ア 目標とする人材像を明確化し、目標達成に向けて身に付ける資質・能力について、ルーブリック評価基準（４段階評価）を示し、生徒が学びの過程を振り返り、学びの見通しを立てることができるようにする。</p> <p>イ ポートフォリオを活用し、学習の記録による生徒の個別の変容を捉え、身に付けるべき資質・能力の効果的な育成を図っていく。</p> <p>ウ ルーブリックを基にしたアンケートを実施し、目標達成に関する自己認識により、生徒の変容を捉えていく。</p>

6 学校の概要

(1) 学校名：熊本県立天草拓心高等学校

(2) 校長名：中村 洋介

(3) 所在地：熊本県天草市本渡町本戸馬場495（本渡校舎）

(4) TEL：0969-23-2141

(5) FAX：0969-23-0784

(6) 学科及び生徒数

(R3.5.1時点)

課 程				全 日 制									
学年別				1 年		2 年		3 年		合 計			
校舎	科別	コース	類型・系列	男	女	男	女	男	女	男	女	計	
本渡校舎	普通科			2	14	10	19	7	7	19	40	59	
	商業科			11	17	5	10	5	2	21	29	50	
	生物生産科			7	2	15	4	14	3	36	9	45	
	食品科学科			14	24	12	18	5	16	31	58	89	
	生活科学科			0	18	0	18	0	30	0	66	66	
	本渡校舎 計				34	75	42	69	31	58	107	202	309
マリン校舎	普通科	総合コース	普通類型	5	3	0	1	1	2	9	13	22	
			情報ビジネス類型			0	0	3	7				
	海洋科学科	海洋航海コース		17	1	19	1	16	1	52	3	55	
			栽培系		3	2	5	3	5	2	17	15	32
				食品系			3	7	1	1			
マリン校舎 計				25	6	27	12	26	13	78	31	109	
合 計				59	81	69	81	57	71	185	233	418	

(7) 教職員数

校長	副校長	船長	教頭	事務長	主幹教諭	教諭	養護教諭
1	1	1	1	2	1	52	2
実習教師	事務職員	司書	※1技師	※2講師	合計		
16	7	2	20	16	122		

※1 機関長・機関士・航海士等含む

※2 常勤講師・非常勤講師

7 研究開発体制

(1) 校内の研究実施体制

氏名	職名	担当教科等	役割
中村 洋介	校長	教科「農業」	統括
泉 伸仁	教頭	教科「農業」	統括・渉外
松上 康子	事務長	事務室統括	経理
平木 慎二	教諭	農場長・教科「農業」	研究主任
藤井 隼人	教諭	生物生産科・教科「農業」	研究主査
岩崎 浩	教諭	生活科学科・教科「農業」	研究副主査
谷口 誠也	教諭	生物生産科主任・教科「農業」	研究担当
住吉 真輔	教諭	食品科学科主任・教科「農業」	研究担当
村松 美香	教諭	生活科学科主任・教科「家庭」	研究担当
久野 雅己	教諭	教務主任・教科「商業」	カリキュラム開発
免田 隆大	教諭	教務部・教科「理科」	評価研究担当
徳永 守	教諭	生物生産科・教科「農業」	研究担当
森山 大士	教諭	生物生産科・教科「農業」	研究担当
稲田 浩文	教諭	食品科学科・教科「農業」	研究担当
酒見 博士	教諭	食品科学科・教科「農業」	研究担当
舟越 弓恵	教諭	食品科学科・教科「農業」	研究担当
中本 美佳	教諭	生活科学科・教科「家庭」	研究担当
古閑 真弓	教諭	生活科学科・教科「家庭」	研究担当
金子 美咲	講師	生活科学科・教科「家庭」	研究支援

(2) 運営指導委員会※

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
木之内 均	熊本県教育委員、木之内農園・会長	会長・農業、学校教育
高崎 文子	国立大学法人熊本大学・准教授	学識経験者・学習評価
津留崎 恵美	株式会社コッコファーム	運営指導・食品加工
豊田 希	有限会社マツイアンドパートナーズ・代表	運営指導・地域連携
山下 弘幸	株式会社農テラス・代表取締役	運営指導・農業経営
前田 正明	株式会社吉次園・代表取締役	運営指導・6次産業化

※年間2回（9月、1月）開催し、俯瞰的な視点で本事業の進捗等に関して指導・助言を行う。

(3) コンソーシアム体制

ア マザー・サークル※（客観的コンソーシアム）

氏名	所属・職名	役割等
岸川 政之	一般社団法人未来の大人応援プロジェクト・代表	学識
渥美 欣也	株式会社デンソー社会ソリューション事業推進部・部長	資源活用
川上 育代	尚絅大学生生活科学部栄養科学科・准教授	資源活用
林田 安生	熊本県商工労働部産業支援課産業支援班・主幹	資源活用
中村 秀朗	熊本県立農業大学校・校長	就農支援
松岡 正之	熊本県天草広域本部・本部長	地域創生
重岡 忠希	熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課・課長	運営指導

※年間2回開催し、本事業の研究内容に各専門性を生かし、客観性を持って深く関わりながら指導・助言を行う。

イ ローカル・サークル※（協働的コンソーシアム）

氏名	機関名	役割等
益田 智	(株)デンソー天草事業所・所長	研究支援
羽衣石 純夫	イオン九州株式会社イオン天草店・販促担当	販売・流通
井上 政哉	(有)岡村農園「HANDMADE」・代表	食品加工
光延 啓人	(株)アグリ・ーツ(光延農園)・代表取締役	栽培技術
倉田 政幸	本校就農アドバイザー、倉田農園ニライカナイ・事業主	就農支援
吉本 和喜	JA本渡五和営農経済部営農課・課長	就農支援
井上 美智信	地元畜産農家・代表	学習指導
山部 秀敏	熊本農業研究センター天草農業研究所・所長	研究支援
木庭 正光	熊本県天草広域本部農業普及・振興課・課長	地域創生
田川 誠也	天草市役所経済部産業政策課・課長	地域創生
小田 勝久	天草市起業創業・中小企業支援センター「Ama-biz」・センター長	職業教育
吉村 彩花	天草ケーブルネットワーク株式会社メディア事業部テレビ制作課・担当	情報活用
緒方 宏樹	熊本県立農業大学校・農学部長	学習支援
小田原 健	熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課・指導主事	運営指導

※年間3回開催し、本事業の研究内容の実践に深く関わりながら指導・助言を行う。

(4) プロフェッショナル型コーディネーターの指定及び配置計画

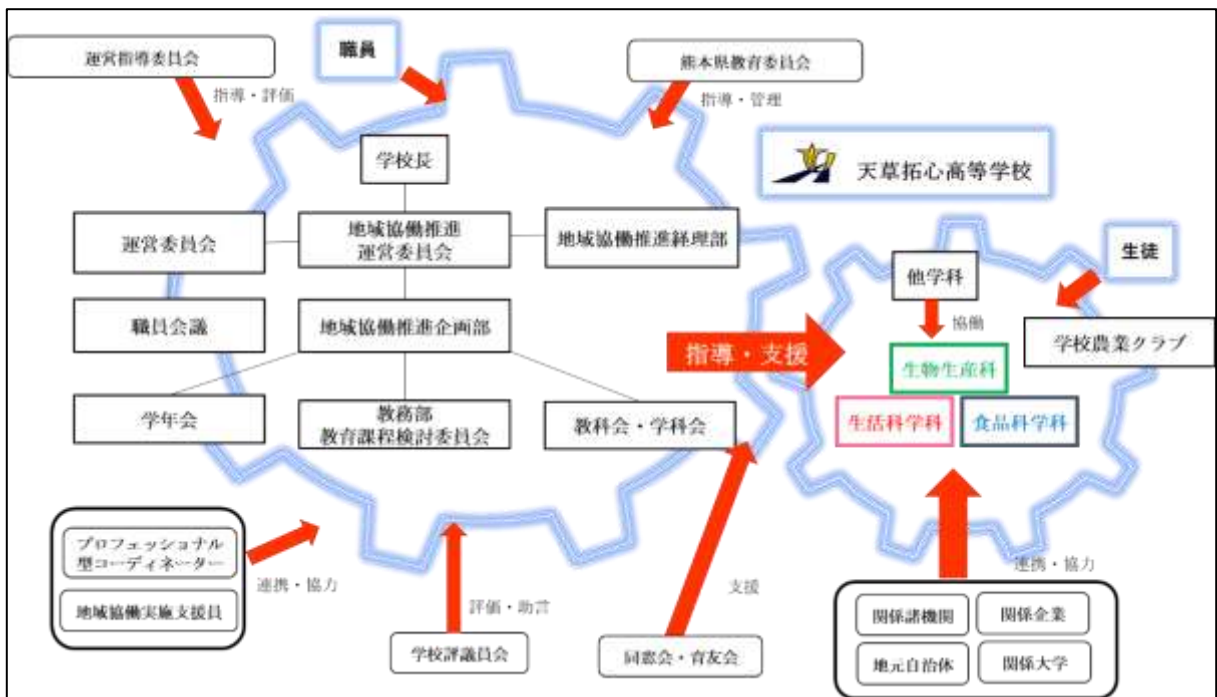
	所属・職名	氏名
プロフェッショナル型コーディネーター	(株)チーム天草・代表取締役社長	西嶋 隆明

配置計画	<p>①研究開始後のカリキュラム編成会議を経て、授業改革の手立て及び研究授業の検証、生徒の変容など、学期に1回のカリキュラム開発検討会を実施する。勤務日数年間80日程度の実施を予定している。</p> <p>②コンソーシアムの運用及び外部人材の発掘等を実施し、生徒とプロフェッショナル人材との協働学習をサポートする。</p>
------	---

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

	所属・職名	氏名
地域協働学習実施支援員	(株)チーム天草・代表取締役社長	西嶋 隆明
配置計画	<p>①月に1回の地域協働支援会議を実施する。その中で、事業内容の現状と成果をもとに、その後の方向性や内容等を検討及び修正を行う。②AOLAをベースとした評価方法及び成果を確認し、地域のニーズに合わせながら生徒の成長に即した段階的な改善を行う。③事業報告書の作成と配付の支援と協力、学校ホームページへの情報発信等を行う。</p>	

(6) 研究開発に係わる校内体制図



8 研究のイメージ図



9 カリキュラムを含めた研究イメージ

